

【第一部】民謡・能楽体験教室

八月二十六日(土) 会場 美保関文化交流館 二階 松江市美保関町 美保関六六一

○正調関乃五本松節

十三時三十分—十五時

講師 関乃五本松節保存会

相見治男、野田雄美子、津川妙子、都田三鈴、米原和子

○能楽

十五時—十六時三十分

講師 美保関宴能出演能楽師

電話、FAX、メールでお申し込みください
(必要事項は参加申込書をご参照ください)

「正調関乃五本松節」由来

●山陰第一の要港として古代より栄えてきた美保関は、江戸時代になって「西廻り航路」の発達により、一層の繁栄をみせ、北前船をはじめとする大小の船舶が往来し、参詣人、旅人、船頭相手の紅灯弦歌で大いに賑わった。
●この美保関の花街で、宴席の騒ぎ唄として謡われたのが「関乃五本松節」である。
●長い航路を経て美保関に入港する船人達は、海上に鳥根半島の影が現れると、西側の入り江近くの小高い山に聳え立つ五本の黒松を目当てにしたという。

●しかし今から百数十年前、藩主が松江から美保関へ通じる松江街道を通行の折、道が狭いのと眺望がさげられるという理由から、街道にかかって生える五本松のうち一本を家来に命じて伐らせてしまった。
●船人達は藩主に対して表立った抗議もならず、再度このようなことが起こらないよう心の中で願うばかりであった。そしてこの船人達のやり場のない気持ちを、誰か機智のあるものが歌詞にし、もうこれ以上伐って欲しくない、歌で時の領主に抵抗を示したものとされる。せめて残りの松は夫婦松として末長く栄えるようにと願いを込めて。



●会場周辺の駐車場が満車の場合、旧美保関東小学校(美保神社まで徒歩約10分)の駐車場へお停めください。終演後、無料シャトルバスを運行いたします。

【第二部】

美保関宴能

八月二十六日(土)

十九時 開場十八時

会場 美保神社 拜殿

松江市美保関町美保関六〇八

小雨決行。荒天時は舞台会場の変更、または中止となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

○能への誘い(演目等の解説)

○一調 春日龍神

謡 藤井丈雄

太鼓 中田弘美

○火入れ式

○観世流能 経正

シテ 平経正 久保信一郎

ワキ行慶僧都 江崎欽次郎

地謡 山中雅志

藤井丈雄

上野朝彦

笛 赤井要佑

小鼓 高橋奈王子

大鼓 守家由訓

「経正」あらすじ

●源平の合戦で討死した平経正の霊を弔うため、仁和寺の僧行慶が、琵琶の名手であった経正が寺に預けて行った青山という琵琶を仏前に供え、管絃講(法事)を行っています。すると経正の亡霊が現れ、懐かしげに琵琶を弾き、夜遊の舞を舞います。しかし、突然修羅の苦しみ襲いかかり、自分の浅ましい姿を恥じ、経正は灯火を吹き消して暗闇に失せるのでした。

歌舞音曲の神々に捧げる能

●歌舞音曲(音楽)の守護神をお祀りする神社として篤い信仰を集める美保神社には、海上安全や諸願成就などの祈願のため、数多くの楽器が奉納されてきました。日本最古のオルゴールやアコーディオンなど、国の重要有形民俗文化財に指定されたものだけでも八四六点到り及びます。

●楽器の奉納だけでなく、歌舞音曲の奉納公演も盛んな美保神社で、平成二六(二〇一四)年から続く毎年恒例の能の上演。今年には琵琶を愛した武将を描く「経正」を、歌舞音曲の神々に捧げます。

能の楽器体験 十八時—十八時三十分 会場 美保神社 回廊 先着二〇名様 申込不要

民謡・能楽体験教室 参加申込書

申込先 山陰でお能を楽しむ会 電話 090-8218-0280 FAX 0852-21-5311

メール sanin-nohgaku@train.ocn.ne.jp

(ふりがな) 代表者 氏名 住所 〒	電話番号(当日連絡のつく番号をご記入ください)	(ふりがな) 代表者以外の参加者 氏名 (ふりがな) 氏名
-----------------------------	-------------------------	---